

クリエイティブワークで まちを元気に！

デザイン力を活かした販促物の制作

東京都小平商工会女性部所属・ラララこだいら

平成十九年度に「女性の創業等支援助成金」の対象になった東京都小平商工会女性部所属・ラララこだいらの「個人商店、個人小規模事業者対象の販促物等の企画・制作」について報告します。

独身時代、フリーランスのコピーライターとして数多くのプランニング、広告制作に携わってきました。結婚後は現役を引退し、主人と珈琲豆店を開業したのがきっかけで、小平商工会女性部との出会いがありました。

仕事の現場はよくわかっていても「まちの現場」は初めてのことばかり。

女性部常任委員を経て副部長になった頃には、まちに貢献できることの喜びと同時にさまざまな課題を抱えていることも知りました。

「例年どおり」の会報を 女性部のPR紙として刷新

その一つが「例年どおり」という感覚です。時代も変わり、人も変わり、まちの様子も変化していく中で、女性部事業は二〇年前から「例年どおり」のままでした。そこで、私の得意分野である印刷物の見直しからスタート。従来の会報を女性部のPR紙的な存在へと転換し、部員だけではなく一般にも配布し、クーポン

をつけて、イメージアップを図りました。

この女性部活動がきっかけとなり、プランニング&デザイン ラララこだいらを企画。平成十九年度・女性のための創業支援助成金（全国商工会女性部連合会）対象事業に選んでいただき、仕事に必要なOA機器やデザインソフトなどをそろえ、同年六月に起業しました。「ローカル」「ローコスト」「リンク」のLを頭文字にした三つのキーワードをコンセプトとし、低コストで、まちと人をつなぐ、人と人をつなぐ広告制作や広報活動、情報発信、プロジェクトの企画を展開しています。

個人事業者のための 格安で企画力のある印刷物を制作

印刷の分野は目覚ましい勢いでデジタル化が進んだことから、何人もの専門家を必要とした印刷用の版下制作も、パソコンと専門のソフトを有し、プランニング&デザイン&コピーライティングのスキルがあれば、一人でこなすことも可能です。

もちろん、専門の制作プロダクションや広告代理店に発注すれば、さらに「いいもの」が作れるかもしれませんが、個人事業者には、到底、手の届く予算ではありません。

ラララこだいらでは、今までと同じ予算、もしくは、それよりも安く、さらに「クリエイティブ」な情報発信を実現。たとえば、オフセット印刷フルカラーの「おまかせデザインチラシ」は五〇〇枚で九八〇〇円。一〇〇〇枚でも一万五〇〇〇円程度のコストで、制作プロダクションに発注したレベルの仕上がりを提供しています。

工夫された紙面に、たくさんの方から 喜びの声が

小平商工会では「予算消化」から



市民が選んだベスト50のショップ（会員）を掲載した冊子「コダイ・ラブ・ランド」の制作のほか、さまざまなチラシなどを手がけている。

「予算活用」をテーマに、まずは広報誌を刷新。市民の皆様にも広く商工会事業を紹介することで、商工会や商工会員を身近に感じていただく工夫をしてみました。プレゼント企画やインタビュー形式の記事など、編集内容にもこだわり、目にとまる、興味をひくデザイン、見やすい紙面レイアウトなどクリエイターならではの感性とスキルを活かして制作しました。

市民の皆様からは「景気の悪さで明るい話題もない世の中で、小平商工会は元気で活気のあることがよくわかる紙面でうれしくなりました」「商工会がいろいろ工夫をこらして地域産業の振興に努力しておられる様子を知ることができました」「小平の商店、事業をされている方が地元も応援していきたいと思えます」など、たくさんのお客様からメッセージもいただいています。

今年春に、小平商工会ブランド開発委員会から発注された小冊子「コダイ・ラブ・ランド ベスト50マップ」は、二十年度事業であったために、三月末日までに印刷をあげなくてはいけないものですが、ギリギリになってもデータがそろわないという危機的な状況。

それでも、会員さんからお預かりしている大切な会費や行政の補助でまかなう商工会事業では「予算消化」にはいけないと、あきらめずに作らせていただいたところ、地元ケーブルテレビでも紹介されるなど、会員の皆さんにも市民の皆さんにも喜んでいただくことができました。

「デザインの力」でまちを元気に

起業してから二年が過ぎ、小平商工会、商工会女性部、市内の会員事業者、市内の各種団体、予算の限られたNPO法人など、たくさんの方の仕事を手がけてきました。印刷物など「情報発信」について、地域経済が低迷し、会員事業者の皆様が後ろ向きになりつつある昨今ですが、女性部の助成金のおかげで、お客様から「ありがとう」といわれる事業を立ち上げることができました。

そして、商工会との出会いがあって、現役を引退したクリエイターのセカンドライフとして、地域貢献に通じる仕事に出会えました。これからは「デザインの力」でまちの元気を少しでも作り出していけるよう頑張ります。